

New Chitose Airport

訪日観光客への対応を強化



混雑する国際線ターミナル 出発フロア

表紙：国際線エプロン拡張工事現場(千歳空港建設事業所 中村誠所長(右)、福本貴則副長)

目次：新千歳空港 国際線ターミナル地域再編事業完成イメージ

裏表紙：南側誘導路新設工事現場

—新千歳空港国際線 ターミナル地域再編事業が進む

8月8日、国土交通省北海道開発局札幌開発建設部は、新千歳空港の工事現場見学会を実施しました。

新千歳空港は、防衛省と共用していた千歳飛行場の南東に民間専用として計画され、昭和50(1975)年度、建設に着手されました。

昭和63(88)年、A滑走路3,000mの供用を開始、平成4(92)年、新ターミナル地区がオープン、平成8(96)年、2本目のB滑走路3,000mの供用が始まりました。

平成22(2010)年には、国際線ターミナルが新設されましたが、韓国、台湾や中国を中心とするアジア圏観光客を中心に北海道観光の人气が高まり、国際線の利用客が大幅に増加、国際線ターミナル地域の各施設で混雑が発生している状況です。

そのため、平成28(16)年度から、国際線エプロン拡張、南側誘導路新設、国際線ターミナルビル機能向上(CIQ(税関、出入国管理、検疫))等、国際線ターミナル地域の再編事業が進められています。

札幌開発建設部千歳空港建設事業所の中村誠所長は、「訪日の方々の増加に伴い待ち時間が多いため、駐機場を3機分拡張し、滑走路までの誘導路を新設することにより乗降や滑走路までの移動をスムーズに行えるようにします。訪日の方々の増加がさらに見込まれる2020年のオリ・パラリンピックに備えます」と説明。完成が待たれます。